2013年　チャレンジカップ　クロアチア大会研修報告
～日本代表コーチとして～

村田　憲亮*

1　期　日　平成25年９月10日（火）～17日（火）

2　場　所　クロアチア　／　オシエク

3　派遣者

＜コーチ＞

畠田　好章

（男子体操競技強化本部員／日本体育大学）

村田　憲亮

（日本代表帯同コーチ／鹿屋体育大学）

＜審判＞

村田　浩一郎（審判委員会部員）

大久保　雄右（審判委員会部員）

＜トレーナー＞

大川　和行（マルチサポート委員）

＜マルチスタッフ＞

村上　拓（マルチサポート委員）

＜選手＞

武田　一志（日本体育大学）

金子　健三（順天堂大学）

小山　仁寛（鹿屋体育大学）

4　競技会場

Hall“GRADSKI VRT”

Kneza Trpimira 23,3100 Osijek, Croatia

Phone number: ＋385 31 570 950

（大会会場）Aspire Academy Dome – Aspire Zone

5　参加国及び出場選手数

本大会の男子参加国は，ARG. AUT. BEL. BLR. CAN. CLO. CRO. CZE. FIN. FRA. GER. GRE. HUN. ITA. JPN. LAT. LTU. MEX. NED. POL. PUR. RUS. SLO. SRB. SVK. TUR. VEN. VIE の28カ国。出場選手は全107名であった。

6　競技方法

①競技は2013年度版 FIG 採点規則に従って行われた。

②競技初日に男子予選（６種目），２日目に前半決勝（ゆか，あん馬，つり輪），３日目に後半決勝（跳馬，平行棒，鉄棒）が行われた。予選は，前半種目（つり輪，跳馬，平行棒），後半種目（鉄棒，ゆか，あん馬）に分かれて行われ，後半決勝は鉄棒－平行棒－跳馬という通常行わないローテーションで行われた。

③使用器具はヤンセン社製の製品使用。ゆかはスプリング式のゆかであった。

④予選，決勝ともに１タッチウォームアップがなかった。

⑤サブ会場は隣接するホールが使用された。

⑥各種目の審判配置は，スーパーバイザー１名，D1，D2 の２名と E1～ E6 の計９名であった。

7　競技結果

３選手ともに決勝進出を果たし，表１記載種目にて演技を行った。D スコアが高く，ミスなく演技を実施できた種目に関しては上位入賞を果たすことが可能であった。

* 鹿屋体育大学　スポーツ・武道実践科学系

表１　決勝結果

2013.9.14-15

Bib	氏　名		ゆ　か	あん馬	つり輪	跳　馬	平行棒	鉄　棒
52	武田　一志	D	6.5	4.9				
		E	8.600	8.125				
		F.S	**15.100(1)**	13.025(8)				
53	金子　健三	D	6.1			①5.6/8.950	6.2	6.3
		E	8.825			②5.2/9.000	8.600	8.025
		F.S	14.925(5)			14.375(6)	14.800(6)	14.325(5)
54	小山　仁寛	D					6.1	
		E					9.225	
		F.S					15.325(4)	

８　日本チーム各選手の決勝演技構成並びに戦況

＜決勝（前半）：９月14日（土）＞

■ゆか

金子　健三　15.100（D=6.5　E=8.600）優勝

後方１回半ひねり(C)，前方２回半ひねり(E)，ルドルフ(E)，ダイビング前宙ダブル(D)，前方２回ひねり(D)，前宙ハーフ(B)，後方２回半ひねり(D)，前方１回ひねり(C)，十字倒立(C)，後方３回ひねり(D)

＊ルドルフで着地をぴたりと決めた。途中の後方２回半～前宙ひねりで蹴りが少し弱まったが，ほぼ完璧な着地で素晴らしい実施で見事金メダルを獲得。

武田　一志　14.925（D=6.1　E=8.825）５位

屈伸ダイビングダブル(E)，前方２回ひねり(D)，前宙ハーフ(B)，後方1回半ひねり(C)，前方１回半ひねり(C)，十字倒立(C)，後方２回ひねり(C)，後方２回半ひねり(D)，前方１回ひねり(C)，後方３回ひねり(D)

＊最初のダイビングダブルで着地を決めた。後方１回半～前方１回半で蹴りが弱まりラストで僅かに動いたが，他は素晴らしい実施で５位。Ｅスコアは全体で２位であったが，Ｄスコアがそれほど高くないところが今後の課題である。

■あん馬

武田　一志　13.025（D=4.9　E=8.125）８位

セア倒立(D)，Ｅフロップ(E)，Ｄコンバイン(D)，Ｂシュテクリ(B)，Ｂバック(B)，トーマス前移動(D)，トーマス後ろ移動(D)，トーマス1/2前移動(B)，ポメル間トーマス(B)，逆リア倒立ひねり下り(D)

＊　前半から良い実施が続いたが，降り技が倒立まで上がらずに落下。終末技がなくなり，Ｄスコアを大きく下げてしまい残念な結果となった。

＜決勝（後半）：９月15日（日）＞

■鉄棒

金子　健三　14.325（D=6.3　E=8.025）５位

コールマン(F)，シュタルダー(B)，シートホップハーフ(D)，アドラー１回ひねり(D)，伸身ヤマワキ(D)，アドラーひねり(D)，ホップターン(C)，ホップハーフ(C)，エンドー(B)，後方伸身２回宙返り２回ひねり(E)

＊　予選で実施しなかったコールマンを成功させＤスコアを上げたが，伸身ヤマワキでバーに近づき少し乱れる。その後の倒立で多少の停滞があったが，着地まで決めた。他の選手と比べると良い実施であったが，Ｅスコアの減点が厳しく得点を伸ばすことができず，５位入賞。

■平行棒

金子　健三　14.800（D=6.2　E=8.600）6位

アームカット，棒下倒立ひねり，棒下倒立(D)，車輪単バー倒立，車輪(C)，ライヘルト，アームライヘルト，ツイスト(C)，前方開脚宙返り腕支持(D)，後方屈伸２回宙返り(D)

＊　車輪単バー倒立で静止がやや不十分で，その後外に出てしまった。上手く修正しその後は素晴らしい演技で着地までまとめたが，前半の中過失が響き，６位入賞。

小山　仁寛　15.325（D=6.1　E=9.225）4位

シャルロ(E)，棒下1/2ひねり倒立(E)，棒下倒立(D)，ベーレ(D)，車輪(C)，ティッペルト(D)，ツイスト(C)，ピンコ(A)，腕支持後ろ振り上がり倒立(B)，前方かかえ込み２回宙返り下り(E)

＊　前半少しもたついたが，全体的には素晴らしい実施で納得の出来る演技であったと思う。Ｅスコアは全体で唯一の９点台で１位であったが，上位３名とはＤスコアで劣った為に４位入賞。今後の課題となった。

■跳馬

金子　健三　14.375　6位

１本目　14.550（D=5.6　E=8.950）ドゥリックス

２本目　13.975（D=5.2　E=9.000）クエルボ１回ひねり

＊　２本ともに着地までまとめた良い実施であった。やはりメダル獲得にはＤスコア6.0の跳躍が最低１本は必要であり，今後の課題となった。６位入賞。

11　まとめ

本大会にはU-21強化指定選手から金子選手，武田選手，小山選手の３名を派遣することになった。各国の有力選手には，ゆかではギリシャのコスミディス選手，あん馬はイタリアのブスナリ選手，フランスのトマソン選手，鉄棒はオランダのゾンダーランド選手などが参加していた。全体的に見ると，あん馬とつり輪の競技レベルが高い印象を受けた。残りの種目に関してはハイスコアを出せる選手の参加が少ないと感じた。特にあん馬はＤスコア7.0を超える選手が２名，得点でも15.50を超える選手が４名とハイレベルな試合であったと思われる。ブスナリ（G）を演技に取り入れている選手も多く見受けられた。ただ，移動前の倒立で停滞する捌きが多く今後の問題点になる可能性も伺えた。

今回派遣した３選手ともに，予選及び決勝において成果と課題を得る事が出来た。特に金子選手はゆかにおいて見事金メダルを獲得し，日本の選手層の厚さを示してくれた。課題点としてはメダルを獲得するには，Ｄスコアの向上が必須であることを感じた。それぞれの課題を帰国後の練習において克服してもらい，今後の競技力向上につなげて頂きたい。

以　上